

「あなたたちは城南の誇りです」(227本の城南桜)

校長 赤木 完治

「当たり前がたくさん」の城南中

まだ、新年度が始まって1ヶ月あまりではありますが、本校の新しい歴史は確実に動き出しています。

先日、本校の避難訓練がありました。私が校庭の一番奥で様子を見てみると、何と一生懸命走って避難してくる子どもたちにとっても感心させられました。しかも1年から3年生まで誰一人として歩いたり、おしゃべりしたりしていません。「そんなこと当たり前」と思うかもしれませんが、この「当たり前」が中々徹底できない現状が今の世の中にはあるのです。でも、本校の子どもたちは、この「大切な当たり前」を自分のこととして自覚・行動することができるのです。やはり、いいものはいい。地域の方々と話をする機会も増え、このことを話すところの方々も満面の笑顔で「城南の子どもたちだから当たり前」と応えてくれます。やはり、日頃から強い理解と共生の意識を持って、本校学校教育活動を支援してくれるPTAや地域の皆さんの存在は大です。本当に感謝の念に耐えません。いい子どもたちをありがとう。こうした声や励ましの言葉、温かい見守りこそが、円滑かつ充実した学校教育への原動力！「ダメなものはダメ！いいものはいい！」私の「口癖」です。触法行為はもちろん×ですが、普段の何気ない生活の中にも命に関わることにつながるような危険が隠れています。本校には、時として共に育成するという共育の視点のもと、時間を惜しまず協力・助力してくれる保護者や地域の方々がたくさんいます。本当にありがたい限りです。これからも、温かい見守りを切にお願いする次第です。

さて、さいたま市では「心を潤す4つの言葉」があります。その4つとは、

- ①はい
- ②ありがとうございます

③ごめんなさい

④おはようございます です。

人として大きく成長するための基盤には、「素直な心の育成」が不可欠です。本校の子どもたちは、とにかく「挨拶」がいい。単なる形だけの挨拶ではなく、「目を見て元気よく挨拶」を生徒からしてくれる。すばらしいことです。また「そんなこと当たり前」という声が聞こえそうですが、この「当たり前」が城南中にはたくさんあるのです。「集合時間に遅れない」「静かに整列」「先生の話をよくきく」「掃除をしっかりとる」・・・。数え上げたらきりがありません。私は、この「当たり前」がどの位あるかが、良い学校を考える際の大切な尺度だと考えます。その意味で、「明るく、やさしく、素直な城南の子どもたち」は、まさにこの地区の宝であり、期待の星です。

本校には校庭に自慢の城南桜があります。本校生徒は、まさにこの城南桜です。この一つひとつの桜を開花させ、満開にすることが本校の学校教育目標そのもの！改めてそう心に誓う今日この頃です。本校職員、この227の城南桜(子どもたち)が「希望」と「愛」と「美」と「活力」で満開になるよう、これからはがんばっていきます。どうか、より一層の本校教育活動にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



「頑張れ、227本の城南桜！」